

# 火曜会通信

第92号

発行日 令和4年2月1日

発行 伊丹市文化財ボランティアの会

発行所 伊丹市千僧1-1-1

伊丹市教育委員会事務局内

## 前へ進む寅年に寄せて

会長 末次 弘幸

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年が皆さまにとりまして、健康で明るい平和な一年でありますよう、お祈り申し上げます。

2021年を振り返りますと、一昨年に引き続き新型コロナウィルスに翻弄される年でした。1月から「緊急事態宣言」が断続的に発令され、幾度となく各種活動の日程変更を余儀なくされました。緊急事態宣言が全面的に解除されたのは9月30日のことで、10月以降はほぼ計画どおりに活動することができました。厳しい状況のなか、何とか活動できましたのは、皆さまの多大なるご尽力の賜物と深謝申し上げます。

2022年は「五黄の寅」の年。これは、九星(きゅうせい:古代中国の民間信仰)の「五黄土星(ごおうどせい)」と十二支の「寅」が重なる、9と12の最小公倍数である36年に1度しか巡って来ない年です。

五黄には「自ら情報を発信していく」特徴があり、環境は与えてもらうものではなく、自分の手で作り上げていく星とされます。さらに寅は「強い情熱で前へ進む」干支。この2つが重なることにより、強い運気が生まれると言われる所以です。

2021年11月改定の伊丹市文化財ボランティアの会会則に、この会は「市内に所在する文化財を保護・顕彰とともに、文化財の調査・研究

を行い、その成果を市民に向けて発信する」(第2条)と定めています。

五黄の寅にちなみ、会則に掲げる方針通りの情報発信力の強い組織を目指したいのです。定例会や会員向け勉強会での発表、会報への投稿など、まずは会員宛に情報を発信していただくとともに、ホームページをはじめ、市民ガイドや市民対象の勉強会などの場を通じて、市民向けにも今まで以上に積極的な情報発信をお願いしたいと思います。

年明け早々、オミクロン株が猛威をふるい、感染者数が急増していて、コロナ感染問題の終着駅はまだまだ見えない状況です。健康に十分留意する一方で、会員の相互研鑽を図り、その成果を市民の皆さんに発信するなど、世のため人のためにささやかながら貢献することを通じて、組織と会員お一人おひとりの「前進を目指す1年」にしたいと考えます。

「寅は千里を走る」と言いますが、我々は寅のように千里を走る必要はありません。しっかりと地歩を固めつつ、1メートルでも2メートルでも、着実に前へ進んでいきたいと思っている次第です。引き続き皆さま方のご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



【ボランティアガイドの案内】 伊丹市内に散在する文化財(史跡)のガイドを

ご希望される方は伊丹市教育委員会事務局内 文化財担当まで電話(☎: 072-784-8090)

または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp)でお申込みください。

## 有岡城跡から惣構に沿って南へ

11月20日(土)の当日は暖かな秋晴れとなり、市民参加者20名とガイド5名で有岡城惣構の遺跡を確認しながら、約3kmのコースを気持ち良く歩きました。今回は募集初日の午前中に定員に達する申し込みがあり、応募者の熱意が伺えます。

コースは有岡城跡→荒村寺→杜若寺→東リインテリア歴史館&猪名野笛原旧跡→鶴塚砦跡→有岡公園内の文学碑→正覚寺→墨染寺→鬼貫生家跡句碑と巡り、1時間40分のガイドとなりました。

出発の有岡城跡ではガイドリーダーから有岡城の歴史や城主荒木村重の生涯についての説明があり、予備知識を持っての出発となりました。

荒村寺では荒木村重ゆかりの寺院であることの説明後、荒村寺東側の歩道から有岡城跡の東方向を見下ろして、猪名川や沼などの自然を使った守りであったことや有岡城が伊丹段丘の高低差をうまく利用して造られていることを確認

しました。移動途中、有岡小学校前でも段丘や堀跡を確認しながら、惣構の東側を南下して行きます。

コース南端の

東リインテリア歴史館では、創設からの歴史や国の有形文化財(建造物)に登録されている建物について、ガイド担当から説明されました。外観は柱や梁を外部に露出させたハーフティンバースタイルで、渡邊節設計のモダンな印象の建

物が百年も前に建設されたことに皆さん驚きの様子でした。

旧大坂道を少し北に戻り鶴塚砦跡



東リ インテリア歴史館

へ。この砦が有岡城惣構の最南端に位置します。古墳を利用して築かれた砦で、尼崎・大阪に向かう街道を警護していた大事なポイントです。しかし、私有地なので近づくことはできないため、写真やパネルを使って説明されました。幕末、有岡八景と詠われた景勝地ですが、今はその面影を感じる事ができません。

産業道路に出て歩道脇の石垣などの遺跡から惣構の西側を確認しながら北上します。

墨染寺には上島鬼貫や荒木村重に関係する石造物などがあり、鬼貫の菩提寺、村重の供養



墨染寺前

地となっています。境内に入れないでの、写真やパネルを使って説明されました。また、この付近は、西の砦、上臘塚砦のあった場所でもあり、その歴史的背景についても話されました。

このコースのまとめともいえる説明に、参加者たちは傾きながら聞かれている様子が印象的でした。

今回のコースは惣構に沿って移動するという通常のガイドでは歩かない小道や裏道を歩きました。新しい発見が多くあったように感じました。

(角谷 記)



荒村寺前

## 屋外研修旅行

### 赤穂四十七士ゆかりの赤穂を巡る～赤穂城跡周辺を中心に～

2019年以来行われていなかった屋外研修旅行が、感染拡大が収まりかけた12月10日に実施されました。目的地は元禄赤穂事件「忠臣蔵」ゆかりの赤穂。JR播州赤穂駅から少し歩けば、息継ぎ井戸や花岳寺があり、赤穂城跡、大手門、大石神社や義士の旧邸宅跡などもすぐ近くにあります。ちょうど討ち入りの日(12月14日)に近いということもあり、参加者たち(会員12名とラスタ歴史クラブ2名)は300年以上前に起きた赤穂事件を思い浮かべながら、赤穂市街地の名所旧跡を散策しました。

そして、その体験は1月18日の定例会で、参加者8名により語られました。

#### 赤穂屋外研修報告 高木 博美

「晴れたらイベントは9割が成功したようなもの」なら、2021年度の屋外研修の日12月10日は朝から成功の予兆、「お日様に青空、そして12月とは思えない暖かさ」と三拍子そろっていて、期待に満ちて伊丹駅を出発しました。

詳細は、1月の定例会発表で参加者有志の皆様がそれぞれの個性を生かして、様々な切り口で報告してくださったので、ここではそこで発表しなかったことをいくつかご紹介します。

#### いくつもある「大石内蔵助お手植え松」



上は花岳寺、下は大石神社の松です。

その他にも駅からお城に続くメインロードの両側も松並木。赤穂は松の街でした。

#### あわやここで研修終了？



昼食は下見で第2候補だった店でしたが、2階の個室を私たちのグループだけで貸し切り、他のお客様に気兼ねせず、ゆったりの昼食となりました。「ゆっくりできたのでこちらの店でよかったです」とのお声も頂き、ほつ。早めの忘年会気分。このままお店にいてもよかったですかも…へへへ。



花岳寺の天井画の寅の絵

#### 今年の干支も昨年のうちに先撮り

花岳寺で天井を見上げると寅がいました。

今年の干支にも早々と出会えた実り多い屋外研修でした。写真で皆様にもおぞそ分け。

本年もよろしくお願ひいたします。

猪名野神社の拝殿前の注連柱を指して「柱に刻まれています『修理固成』という文字は、昭和天皇が皇太子であられた時の教育係で、倫理学を進講された杉浦重剛氏の筆によるものです」とガイドで紹介し、「修理固成」の由来を説明します。

この杉浦重剛なる人は滋賀県大津市の出身であり、市内には生誕地と称する場所が二か所あります。

ひとつは大津市秋葉台の茶臼山の公園の一角に「杉浦重剛先生誕生地」なる記念碑がありますが、何とその大きさには驚きます。

写真だけでは大きさが測りかねますので、同行の友人にそばに立ってもらいました。個人名の碑で、これほど大きなものを見にしたことはありません。

昭和10年(1935)年に、東海道線車窓から見えるようにとの目的で大きく立てられたのですが、当然、現在では建物などで隠され、車窓から目にはすることは出来ません。



この公園の近くの杉原町に「杉浦重剛旧宅」がありますが、こちらにも門前に「杉浦重剛先生誕生地」と書かれた石碑が立っています。

この旧宅は明治中期の建築で、土塀に囲まれた建物ですが、その庭には「杉浦重剛先生像」が据えられています。

この像は門から見て、こちらを向いておらず、90度右を向いていますが、これは土地の人々の話によると、皇居を遥拝しておられる姿であることです。

大津市の人々は「杉浦重剛先生」と敬っておられ、杉原重剛氏に対する尊敬・敬愛の念がひしひしと感じられます。

この旧宅の近くには三井寺・石山寺・茶臼山古墳・膳所城跡などがありますので、旧跡を巡るに適したコースであると思います。

ぜひ機会があれば訪問をおすすめします。



## 文化財清掃ボランティア活動

### 「土壌を覆う雑木類の刈取り作業」参加のお願い

有岡城跡の清掃は当会を含むいくつかの団体で行われているようですが、周囲の土壌部植込みは全く手入れがされていません。実生の雑木・ツタ類が生い茂り、見苦しい状態のまま放置されています。このたび社会教育課から雑木・ツタ類を刈り取りたいと要望があり、会員有志として協力することになりました。

第1回目の作業として12月21日(火)9時から会員8名、社会教育課ほか3名の計11名が参加しました。各自剪定ハサミなどの道具を持ち寄り作業開始、大きなゴミ袋10個分を刈取り、1時間半の作業時間は無事終了しました。どうもご苦労さまでした。

作業がしやすい冬期間中は、月1回程度の作業を実施したいので、皆様の参加をお願いします。作業日時は追って連絡します。



(松田 記)

## [町の小さな文化財 第23回]

### ホーケントの廻国供養塔と新建石橋碑 北伊丹 5丁目



廻国供養塔(左)と新建石橋碑(右)

旧西国街道が猪名川右岸堤防に突き当る 100mほど上流、芭蕉翁あゆみの地の碑と並んで廻国供養塔・新建石橋碑がある。

近世には聖・行者と名乗る人物が納経・納札のために全国を廻り、各地の社寺に参ったり石塔・板碑などを建てることが流行した。この廻国供養塔には寛政6年(1794)の銘がある。その横に「新建石橋碑」と題し、石碑下側に長文の経過を刻んだ文章、左右の両側面に願文、裏面に223の社寺名を連記したみごとな石碑が立っている。願文はここに石橋を架け、往来の人々にもたらす苦しみを除くため、神号を書写した紙を配り、造橋の費に充てたいという内容である。なぜか年号の部分が打ち欠かれている。『新伊丹史話』参照

地域研究『いたみ』第12号「中村の民俗 大正期を中心に」において、明治39年生まれの古者の聞き取り調査を実施している。その中に次の記述がある。「中村井と軍行橋の間で盛んにバラス採集が行われた。この時旧西国街道の曲り角の堤防下(ホーケントといった所)から石碑が出土した。現在は堤防上にある。」

出土した石碑とはまさに廻国供養塔と新建石橋碑の2つの石碑のことではないか。

石碑は寛政期に建立されたが、その後幕末か明治期の洪水で堤防が決壊して石碑は 土砂に

埋没、大正期になってバラス採取時に偶然掘り起され、再び堤防上に建てられたのだろう。明治44年発行地図には碑は記載されていないが、昭和7年発行地図には記載がある。



昭和7年発行地図 1/25,000

#### ホーケントの由来

昭和50年に行われた中世伊丹の石像美術品の調査において、この供養塔前に宝篋印塔の塔身が残置しているのが確認された。

1450年頃の造立と考えられ、石造美術品としての価値が認められて博物館で保管されることになり、現在は現地にはない。

地域研究『いたみ』第5号、20号

宝篋印塔に因んでこの場所を「ホーケント」と言っていたのだろう。

JR福知山線が旧西国街道と交差する踏切は、現在も「宝剣堂(ほうけんどう)踏切」と呼ばれている。



(松田 記)

## 屋外研修の記録

### ・11月12日(金) 中野地区 参加 9名

昆陽池公園西口から中野の集落中心部を通る有馬道を北へ、途中で中野稻荷神社に寄り、素戔鳴神社に着きます。ここまでお馴染みのコースです。さて神社から天王寺川に沿ってさらに北上、大鹿方面からの有馬道に入り、宝塚市安倉で先程の中野からの有馬道と合流します。ここには宝塚市指定文化財「姥ヶ茶屋道標」があります。伊丹市内に戻り、常休寺で浅野孫左衛門の墓に参りました。常休寺を出て孫左衛門池跡地に沿った旧道を半周して「土地改良碑」に、そして天王寺川沿いにある「先駆者顕彰碑」を巡りました。



常休寺

### ・11月26日(金) 御願塚・南野地区 参加 10名

阪急稻野駅から御願塚古墳・須佐男神社を経て南野へ、隣りどうしの南野神社・了福寺の説明を受ける。住宅街の中にある平塚古墳は表示がないので分かり難い。ラスタホールの石像を経て最後に訪れたのは五合橋筋の「洋服の○○」。ここで当地にまつわる話を一席伺う。「…以前この場所から瓦多数が出土するという知らせがあった。もしや幻の安堂寺の瓦では?と希望を膨らませたところ、昔当地に瓦仁という瓦屋の工場があつて、瓦出土の地は不良瓦の廃棄場所であったことが分かり、安堂寺の瓦発掘の夢ははかなく消えてしまった…。」



南野神社

### ・12月16日(木) 加茂遺跡他 参加 10名

近郊市外シリーズの第1回目として、加茂遺跡と関連の川西市文化財資料館、宮川石器館を訪れました。JR川西池田駅から南へ歩いて10分余り、伊丹台地の北端部に位置する加茂遺跡は弥生中期の大規模集落です。また周囲の平地とは20mの標高差があり、防御性が高いことが特徴であり、平成12年に国の史跡に指定されました。当日の遺跡および資料館の説明は予め資料館の職員にお願いしておいた。



宮川石器館

宮川石器館は地元の篤志家宮川雄逸氏が加茂遺跡で蒐集した石器・土器を公開するために、自宅の長屋門を改造して常設展示室を設け、昭和11年に開設した私設の施設です。開設以来80余年を経た現在も施設は親族により維持され、希望者には予約のうえ公開されています。

## 【研修サロン班・活動記録】(11月～1月)

(勉強会) 11/4 (木) 「旧村：御願塚・南野」、12/2 (木) 「野間・川西加茂遺跡」、  
1/20 (木) 「尼崎北東部」

(屋外研修) 詳細は上記

## 【研修サロン班・活動予定】(2月～4月)

(勉強会) 2/3 (木) 「旧村：神津」、4/7 (木) 「西宮鳴尾地区」  
(屋外研修) 2/17 (木) 「野間」、3/3 (木) 「尼崎北東部」、3/17 (木) 「神津地区」  
4/21 (木) 「西宮市鳴尾地区」

**江戸時代・文化文政頃の貨幣と物価(現在の物価との比較表)**

江戸前期に上方(京都・大阪を中心とする近畿地方)で起こった町人文化を「元禄文化」と呼ぶのに対して、江戸時代後期の文化文政時代(1804年~1830年)江戸を中心に発達した町人文化を化政文化といいます。

今回の定例会発表で、池田さんは文化文政頃の諸物価を現在の円に換算して示し、当時の江戸庶民の暮らしぶりを思い起こさせられました。

時代劇に登場する1文は現在の円では20円程度です。

たとえば、そば・うどんは16文(320円)、あべかわ餅は5文(100円)で、現在と変わらない価格ですが、湯引きが必要なゆで卵は20文(400円)と少し高めです。私たち伊丹市民にとって興味深い酒の価格は江戸の地酒1合が20文(400円)に対して、伊丹の上酒は80文(1,600円)ですから、やはり高級酒だったようです。また、宿賃(1泊2食)は300文(6,000円)や床屋が32文(640円)と、現在と変わらないですが、女性の口紅は当時貴重品だったようで、1両(128,000円)もしていました。湯銭(風呂屋)は6文(120

円)、寺子屋の月謝が200文(4,000円)、庶民が日常履いていた草履は6文(120円)、下駄(並)は100文(2,000円)で、これも今の世の値段と違いがなかったようです。

さて、奉公人の給料はとなると、丁稚や小僧は8年間無給であるのに対して、手代(10年迄)は3両(384,000円)、番頭に至っては30両(3,840,000円)だったようです。他にも、江戸時代の封建社会では武士は優遇されており、江戸時代の代表的な職名の与力はなんと1000両(1億円以上)の年棒を受給していたといいます。

こうして、円に換算して庶民の生活を想像してみると、ぐっと江戸の暮らしが身近に感じられます。

(注)発表の内容は丸田勲著「江戸時代江戸の卵は一個四〇〇円!」(モノの値段で知る江戸の暮らし)から引用されています。

(金川 記)

**どんぐり座公演**

11月20日午前、スワンホールでどんぐり座の公演がありました。

演じた題目は、  
・三軒寺の砂かけ狸

・野間の一本松といたずらきつね

・二蝶丸

の3作品です。

三密を避けるため、椅子の間隔を広くとっているので観客が数人しか写っていませんが、この横や後ろにも席があり、親子で来場された方、同時期に開かれている「伊丹市展」に来場された方など、年齢も就学前の幼児さんから、人生をたくさん過ごされてきた方まで幅広い客層を前にしてどんぐり座のメンバーが紙芝居を情感たっぷりに演じられました。

日頃グループ活動は、定例会で口頭で報告されるだけで、なかなかその活動がグループ以外の会員の方は、目にする機会がありませんが、これを機にご興味を持たれた方は、どんぐり座の活動日(第3火曜日 10:00 スワンホール)をのぞいてみてくださいね。また、来年4月の総会後にどんぐり座さんの公演予定です。

(高木 記)



## 年男・年女

### 6回目の年男 22期生 山本 康夫

ついに私も6回目の年男になりました。

ありきたりですが、この72年間両親、妻、友人始めまわりの色んな人に支えられここまで来たという感じです。本当に感謝です。

生まれて0才で、台風のために尼崎から伊丹宮ノ前の祖父の家に移り住み、それ以来丸71年の伊丹暮らし。伊丹小学校時代までは猪名野神社から市内中心部の阪急伊丹駅あたりをうろうろし、その辺の地理にはかなり詳しかったです。学生時代、企業人時代はほとんど伊丹について顧みることは無く、年金暮らしになってからやっと伊丹の事をしっかりと見つめるようになりました。5年前にもっと知ろう、そして紹介していきたいとこの会に入ったわけです。

7回目の年男めざして、これからも少しづつ、もっと伊丹を深く知りたいと思っています。

皆様ご指導よろしくお願ひします。



### 活動記録 (11月～1月)

【定例会】・11/9 (火) ・12/14 (火) ・1/18 (火)

【案内ガイド】・11/16 (火) Aコース (個人 名古屋) ・11/20 (土) 「有岡城跡から惣構に沿って南へ」 (文化財保護啓発事業協力) ・1/22 (土) (歴史クラブ 神戸市)

【歴史ロマン体験学習支援】・11/13 (土) ステンドグラス・12/11 (土) クリスマスツリー  
1/22 (土) お面をつくろう

### 【市内文化財の一斎清掃】

11/27 (土)、文化財保護活動啓発事業の一環として市内文化財の一斎清掃が行われました。当会から会員17名が有岡城跡、伊丹廃寺、御願塚古墳の3か所に分かれて参加しました。

【研修サロン班】詳細は6pに掲載



御願塚古墳での清掃活動

### 今後の予定 (2月～4月)

【定例会】・2/8 (火) ・3/8 (火) ・4/12 (火) 予定

【案内ガイド】・2/19 (土) 「清酒発祥の地鴻池を訪ねて」 (市民ガイド) <2月3日(木)下見&勉強会>

【歴史ロマン体験学習支援】・2/26 (土) 鋳造

【研修サロン班】詳細は6pに掲載

### トラ！トラ！トラ！ 24期生 横 良子

虎は昔、神の使いでした。

そもそも日本に虎が生息していたのか疑問ですね。

縄文時代よりはるか昔、地質時代の区分の一つである更新世といわれる時代に、日本はまだ中国大陸と地続きで、日本海は巨大な湖でした。このころの日本は虎が生息しており、当時の地層から人骨と一緒に虎の化石が発掘されています。おそらく、次の沖積世になって大陸から日本列島が完全に分離したことになり生息していたトラは絶滅したと思われます。

以降の日本には中国に生息するトラのイメージが風聞として入ってくるようになります。当時から勇猛の象徴として見られていました。

以来、江戸時代には子供の厄病除けとして、寺の境内で見世物として飼われていたこともあったとか…。

コロナも早く収束すると良いですね。